

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	看護ケアにおける看護師の前腕の汚染に関する実験的検証				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	加藤 京里
	研究分担者	所属・職名	看護学部・准教授	氏名	永谷 幸子
		所属・職名	看護学部・准教授	氏名	山口 みのり
		所属・職名	看護学部・講師	氏名	管原 清子
	発表者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	加藤 京里

講演題目	バイタルサイン測定における看護師の前腕の汚染に関する実験的検証
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【研究の背景と目的】 日本国内の多くの病院では、看護師はケア場面において半袖の白衣にプラスチックエプロンを着用し、前腕部位は露出されている。衛生的手洗いは、一番汚染しやすく感染の伝播経路となりやすい手指から手首の洗浄、消毒を行う方法が看護学のテキストに掲載されており、またこの方法はCOVID-19 パンデミック下で一般市民にも普及した。現行の衛生的手洗い方法では、手首よりも中枢側の前腕は洗浄・消毒しない。しかし医師やその他医療従事者と比較して看護師は、患者に密着してケアを行う。手首よりも中枢側の前腕が、患者や療養環境に触れることが予測されるため、前腕も洗浄、消毒が必要ではないかと考えられる。よって本研究では、実験的に看護ケア場面をシミュレーションし、看護師の前腕における汚染部位を解明する。</p> <p>本研究は、静岡県立大学研究倫理審査委員会の承認（承認番号：3-18）を受けた。</p> <p>【概要】 実験の被験者（看護師役）は、看護実践の実際を反映させるために、看護師として臨床経験のある者とした。看護ケアのシミュレーション場面は、バイタルサイン測定を設定した。看護ケアの対象となるモデル人形に蛍光剤を塗布し、モデル人形に触れた被験者の身体の部位に蛍光剤が付着するよう操作した。実験環境として、ベッドの高さ（55cm）、ベッド柵、寝具、床頭台、椅子の配置を設定した。看護ケアのシミュレーション場面の手順は、体温測定（電子体温計、左腋窩）、脈拍測定（右橈骨動脈）、血圧測定（アネロイド血圧計、聴診法、右上腕）の順にバイタルサイン測定を実施するように統一した。測定順序と測定部位以外の方法は指定せず、患者（モデル人形）に声をかけながら自由にバイタルサインを測定するよう被験者に依頼した。シミュレーション後、被験者の前腕の蛍光剤付着部位を確認するために、暗室にて、ブラックライト照射下で静止画撮影を行った。蛍光剤付着部位の面積は画像処理ソフト（imageJ）を使用して計測した。</p> <p>現在、臨床経験年数4～31年の女性7名から得られたデータを解析中である。</p> <p>【今後の展望】 引き続き本研究課題に関するデータ収集を行い、目標サンプル数に到達した後は、バイタルサイン測定以外の看護技術についても検証する予定である。</p>